

# 山田小学校だより (Metamorphose)



文責 校長 谷川晴峰

## 「今の時代に、生まれなくてよかった!」・・・間違いなく自分も墜ちていったはず!

昨夜は、生月中学校において、「三校合同メディア安全講演会」が開催されました。今朝の職員室では、その話題で様々な情報が飛び交いました。家庭の温度差があまりにも大きく、ほとんど保護者の制御が利かないまま、「オンラインゲームの虜（とりこ）」になっている」という子供たちが、本校にも存在していることが分かりました。学校便り第24号でも書いていますが、ゲーム依存は、明らかに病気です。大切な人生を破滅に導く、危険性をはらんでいます!

「今の時代に、生まれなくてよかった!」というのは、私の率直な感想です。幼かった頃の自分を分析すると、興味のある事柄に没頭し、良くも悪くも集中しすぎて自分を見失うような言動に終始していたような気がします。情報が氾濫し、ITやAI技術が進歩する現代に、自分が小学生として存在していたら、間違いなくゲーム依存症になり、そして若年性廃人になっていたと思います。

子供たちの部屋から、「殺せ!倒せ!」等の叫びや呻（うめ）きが聞こえてきませんか?部屋を閉めきって、オンライン（通信状態）で対戦型の殺戮（さつりく）ゲームに、心身を蝕まれていませんか?学校の守備範囲を超えています。止めさせるのは、止めさせることができるのは、家族のみなのです!廃人にしますか?賢人にしますか?大切な子供たちを……。決めるのは今です!

**\*ゲーム依存症の症状とは（以下の文章は、第24号に記したものです。熟読を!）**

WHOによると、ゲーム依存症の具体的な症状は、「ゲームをする衝動が止められない」「ゲームを最優先する」「健康を損なう等の問題が起きてもゲームを続ける」「個人や家族、社会、学習、仕事等に重大な問題が生じる」等が特徴です。症状が12カ月以上続いた場合、ゲーム依存症と診断されます。ただし進行が早い幼少期の場合は、前述の症状に該当し重症であれば、もっと短い期間でもゲーム依存症と診断されます。

不登校になった挙句退学してしまったり、会社をやめてしまったり、子育てを放棄したり、引きこもりになる等、社会生活や人間関係等に、重大な支障が起きる点が最大の問題とされています。それだけでなく、健康に重大な被害が及び、エコノミークラス症候群や脳溢血等で死亡する例も起きています。アルコール依存症も怖いといわれますが、幼児期からゲームに接触する現状からしてみると、ゲーム依存の方が、闇は深く恐ろしいと思います。

ネット上に、自分やお子さんの今の状態が「ゲーム依存症」にどれほど近いのか、自己確認できるサイトがありました。以下の項目に少しでも当てはまるようなら、気を付けたほうがいいと思います。

- ① 始める前に決めた時間より長く、ゲームをしていることがある。
- ② ゲームに夢中になり、やるべきこと（勉強や習い事等）をさぼったことがある。
- ③ 何をもって、ゲームを優先する傾向がある。
- ④ 自分のことより、ゲームの内容が気になって仕方が無い。
- ⑤ 日常生活の中で、常にゲームのことを考えてしまう。
- ⑥ 人に言われ、ゲーム時間を減らそうと試みたが、できなかった。
- ⑦ 徹夜ゲームもいとわない。
- ⑧ ゲームを邪魔をされたときに、怒鳴ったり、取り乱したりすることがある。
- ⑨ 日常生活では、あまり面白くないことが多いが、ゲームの中でなら楽しくいられる。
- ⑩ オンライン上の友達の方が、現実よりも多い。

